

今週のメニュー

■トピックス

◇海外のPVCコンテストだより

■随想

◇生涯賃金と収支（連載54）（終）

金沢工業大学大学院・東京大学大学院 上野 潔

■編集後記

■トピックス

◇海外のPVCコンテストだより

軟質塩ビを扱っているサプライチェーン6団体で、昨年に引き続き、塩ビものづくりコンテスト [“PVC Design Award 2012”の作品募集](#) を始めたことを先週紹介したところですが、海の向こうでも様々な形で、塩ビコンテストが行われていますので紹介したいと思います。

まず、情熱の国ラテンアメリカのブラジルでは、2003年、塩ビ協会が主体となって、多くの学生や卒業間もない若手デザイナーを集め、デザインコンテストを行っています。審査の基準は、斬新さ、柔軟性、機能性といった塩ビの特徴を活かした点に重点におかれています。塩ビパイプやホースを使った家具や家庭用製品やランプ、椅子、さらにはカラフルで空気で膨らんだソファや装飾品などが展示され、芸術家やデザイナーによってプラスチックの存在が大きく変わり、付加価値の高いものに生まれ変わったとのこと。このような動きは、アルゼンチンの塩ビグループが開催する“Create with PVC”やコロンビアのプラスチック工業協会によってもコンテストが開催されるようになり、周辺国に広がっているようです。

米国の塩ビ協会は、ACSA(Association of Collegiate Schools of Architecture)が管理する若い建築家を目指す学生を対象とした住宅のデザインコンテストを支援しています。住宅の設計には、広さ、価格、応募する学生の住居地域の気象ゾーンに合致した建築基準を満たすことなどいろいろな条件が設けられていて、できる限り塩ビを使ってシンプルで手ごろな価格の住宅を設計したデザインを対象に Vinyl Award を設けています。学生は、設計を通して塩ビ建材の持つコストパフォーマンスばかりでなく、エネルギー持続可能性、耐久性、耐候性などを学んでいくというわけです。

欧州の塩ビ樹脂メーカーの Solvin は、加工業者、添加剤メーカー、加工機械メーカー、消費者、サービス業者、メディア、研究所、デザイナー、学生など実に幅広い層を対象として、3年に一度“Solvin Awards for PVC”を開催しています。応募は、Innovation, Design, Recycling の3部門に分かれており、塩ビに関するもので、塩ビのポジティブイメージを

提供するものや、既存製品の改良、欧州市場に影響を与えるもの、開発中あるいは最近上市されたものなどの中から、Gold、Silver、Bronze の Solvin Award を授与しています。

なお、2010 年の応募作品は、[Solvinのweb](#)で紹介されていますのでご覧になることができますが、以前、海外の話題としてメルマガで紹介した作品も含まれています。

2010 年の応募作品より



[ケープタウンのグリーンスタージアム](#)



[自転車分離帯“Zebra”](#)

世界各地から、斬新なアイデアで世の中に役立つものが作られることが楽しみです。(了)

■ 随想

◇生涯賃金と収支（連載 54）（終）

金沢工業大学大学院・東京大学大学院 上野 潔

退職のご挨拶の葉書やメールが沢山届くようになりました。殆ど全てが、入社以来の仕事の振り返りと、組織や仲間への感謝の言葉が綴られています。ここで、恨み言や失敗談はなくどちらかと言えば自慢話が多いのです。若い頃は斜め読みしていましたが、最近は頷いて丁寧に読むことにしています。

私にも社会保険庁から年金の支払い記録が届いたので、初任給から最終給与までの記録がよみがえりました。これに退職金を加算すれば、私の生涯賃金が計算できるわけです。

ゆりかごから墓場までの環境負荷を算出するのが、LCA であるとすれば、給与所得者の場合は初任給から退職金までの収入の合計が個人の生涯賃金となります。本当は退職後の年金も収入なのでしょうがここでは一応除外しましょう。

日本では、個人の収入を公表する習慣がないのでよくわかりませんが、独立行政法人労働政策研究・研修機構の 2005 年データによれば、日本の給与所得者の生涯賃金は中卒男子：2 億 2 千万円、高卒男子：2 億 5 千万円、大卒男子：3 億 5 千万円（役員を除く）となっています。業種や会社の規模、役職によって大きく異なるはずですが「えー私はそんなにもらってないよ」と言われるかもしれません。

実際はこの他に会社にいると無償で提供される、文房具、電気、水道、パソコン、交通費、電話代などの経費、福利厚生施設や、社内サービスなど有形無形の恩恵が加わります。職種や役職によっては交際費、会議費も加わり、グリーン車やビジネスクラスの利用もできます。退職するとこれらがすべて自己負担になるので会社の恩恵がよくわかります。

退職の挨拶状には、成功話しか書かれていませんが、実際は長い会社生活で多くの失敗もしているはずです。生涯賃金を計算するなら、会社から得た利益と与えた損害の差引を計算する必要があります。これが本来の賃金バランスでしょう。

しかし、多くの会社は個人プレーではなく多くの役割分担とチームプレーで動いています。設計ミスや製造ミスによる不良品の製作は、品管技術者、修理技術者、営業マンほか多数の仲間の働きでリカバーされるのです。

ひどい損害を会社に与えたと思っても、その後処理が会社の信用をかえって増したり、その事故の教訓が会社のノウハウになり後継者を育てたりすることもありますから、一概に個人のミスが会社に損害ばかりを与えたとは言えません。

大事なことを忘れていました。どんなに会社で失敗しても給与所得には税金がかかりますから、納税を通じて社会にも長年貢献してきたのです。退職金には税金がかかりませんが、年金にも税金がかかりますし消費税も一生払うので、退職後も社会を通じて会社に貢献しているのです。

会社の仕事にも波があり、運不運があります。開発期間が数年にわたることがある大型製品の場合、同じ部門の技術者でもいつも開発の最前線で活躍する人もいる反面、いつも不具合の後始末に関わる人もいます。人事のローテーションでうまくバランスが取ればよいのですがすべてがうまくはいきません。

ある仕事を受託するとき、先方から「金か名誉か」と言われました。そのとき私は「金も名誉も」と答えました。「名誉」は「心意気」と言い変えたほうがよいかもしれません。「心意気」だけでは企業は成り立ちませんからね。

しかし会社を離れた今となっては、「金よりも心意気」です。それは生活に不自由しない程度の年金が入るようになったから言えることなのでしょう。大学で講義をしたり講演会でお話しすることは、いただくお金はわずかでもこの上ない喜びです。

人前で話をするとき、お説教と自慢話と昔話が多くなると年を取った証拠だと言われたことがあります。経験や知識を伝えたいという気持ちは、聞かされるほうは迷惑かもしれませんが、「心意気」の一つなのです。私の生涯賃金の収支は金銭では不明ですが、若い学生への講義や社会人への講演が少しでも役に立ったとすれば、おかげさまで黒字になりそうです。

この随想もいつの間にか5年を経過しました。これで一区切りにいたします。長い間お読みいただきましてありがとうございました。(完)

前回：[「総花と集中」\(連載53\)](#)

■ 編集後記

先日、半蔵門線の水天宮から帰宅する途中で、長い布製の袋を持った学生さんが電車に乗り込み、隣の席に座りました。和弓にしては先が曲がっていないので不思議に思い「これは何ですか？」と尋ねると、「これは棒術の棒で、練習の帰りです。」と自然な対応で教えて頂きました。道すがらの出会いにも拘わらず、丁寧に棒術の話しをされ、別れ際に「古来の日本にある武道ですが興味を持って頂き、ありがとうございます。」と会釈をされて席を立たれました。その落ち着きと礼儀正しい立ち居振る舞いに感心し、さわやかな気持ちで家路に着くことが出来ました。後日、棒術を調べると、全てが柄であり全てが刃となる棒の特性に関わり、「間合いの取り方を学ぶもの」とありました。無駄な力を抜き、しなやかな動きが求められる棒術は、日本人が大切にしてきた「間の取り方」と関わり、人と人との付き合い方、仕事の進め方などにも活かされるものと思いました。

連休中のメルマガは休刊いたしまして、次回は5月10日(木)の発行となります。(円行)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp